

Ⅱ 薬品の扱い方

薬品の基本的な扱いと注意

- 酸やアルカリなどの水溶液が体についたときは多量の水道水（流水）で十分洗い、症状によっては医師に相談する。
- 薬品の調整は準備室で行い、危険性のある薬品を児童の前で薄めたり、溶かしたりする調整はしない。調整した薬品を入れた試薬びんにもラベルを貼って管理をする。
- 薬品庫の施錠、薬品台帳の整理等、管理をきちんとしてし、廃液の処理は、学校薬剤師などと相談をして保管し、教育委員会と連絡をとめて処分する。
- 薬品を児童に扱わせるときは、安全めがねをかけさせる。

関連単元

- ものが燃えるとき
 - ヒトや動物の体のつくりとはたらき
 - 水よう液の性質
- みんなで使う理科室



小学校で使用する薬品について

6年

1 アルコール

- メチルアルコール（工業用アルコール）は、アルコールランプの燃料として使用されているが、引火性と揮発性に注意をするとともに毒性にも注意が必要である。飲用すると失明や死にいたることもある。

2 石灰水

- 二酸化炭素に反応し、炭酸カルシウムとなって液が白く濁る。液は、水酸化カルシウムの水溶液でアルカリ性を示す。手や目にかかると炎症を起こすのすぐに多量の水道水で洗う。保存するびんのふたはゴム栓にする。
- コース引き用のラインパウダーは炭酸カルシウムであり、これを水に溶かしても、石灰水として使えないことに注意する。

3 塩酸

- 濃塩酸のびんでは、栓を開けると有毒の塩化水素ガスが出るので注意する。ゴム手袋を使用し、必ず教師が事前に希釈しておく。原液を教室には持ち込まない。児童用は、約10%の濃度で使用する。保管は、密栓をし、劇薬庫に保管する。

4 過酸化水素水

- 徐々に分解し、水と酸素になる。触媒や熱、光で分解が促進される。二酸化マンガンとの反応では、濃度が高いと、激しく反応し、噴出や多

量の発熱をともなう。実験では、約4%程度にうすめて使う。保管は、ラベルを貼った褐色のびんに入れて薬品庫に入れる。

- 手につくと炎症を起こし、水ぶくれをつくるので、すぐに多量の水道水で十分に洗う。目に入ったときは、ためた多量の水道水で洗い、すぐに医師の診察を受ける。

5 水酸化ナトリウム

- 極めて危険な劇物に指定される強アルカリ性の薬品である。粒状の固体で、水によく溶け、熱を発生する。潮解性があり、空気中の水分を吸収して溶ける。手で絶対にさわらないようにする。約10%で使用する（水90mlに対し水酸化ナトリウム10gを溶かしてつくる）。手につくと炎症を起こし、水ぶくれができるので、すぐに多量の水道水で十分に洗う（水道栓を開けたままで、水流は弱めにする）。目に入ったときは、ためた多量の水道水で洗い、すぐに医師の診察を受ける。
- 水溶液は試薬びん（ガラス製）かボリ容器に保存するが、ガラス製の試薬びんのときはふたはゴム栓にする。ガラス栓だと、溶けて栓が壊れなくなる。

6 BTB 試薬

- 毒性はきわめて低いが、飲まないよう注意する。

7 炭酸水

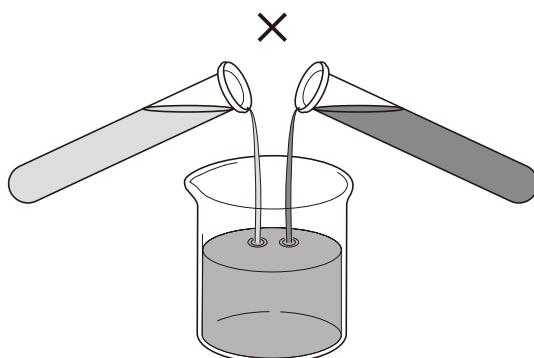
- 実験に使用するペットボトルは、炭酸用にする。

薬品のあつかい方

● 安全に実験するため

6年生では、いろいろな薬品を使うが、使い方をまちがえると大変危険である。必ず安全めがねをかけ、先生の指示にしたがって気をつけてあつかおう。

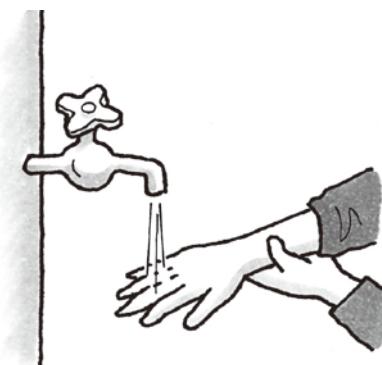
- むやみに薬品を混ぜない。



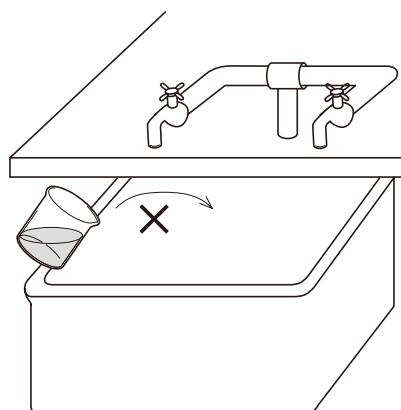
- 安全めがねを使う。



- 体についたら、すぐに多量の水道水で洗い、先生に報告する。



- かってに持ち出したり、捨てたりしない。



- 実験机の上は片づけておく。^{つくえ}

